

平成 29 年度 第 1 回仙台市環境審議会

議事要旨

日時：平成 29 年 6 月 1 日（木） 10:30～11:55

場所：仙台市役所本庁舎 2 階 第一委員会室

I 次第

1 開 会

2 議事・報告事項

- (1) 平成 29 年度仙台市環境局主要事業について
- (2) 温室効果ガス排出量等について
- (3) 環境影響評価制度の対象事業の拡大及び環境調査の強化について
- (4) せんだい環境学習館（たまきさんサロン）の取り組みについて

3 閉 会

II 出席委員数

出席 15 名

欠席 10 名

III 議事要旨

司会	議事・報告事項に入る。
議長（西村会長）	以後の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第 5 条第 1 項に基づき、西村会長にお願いする。
委員	それでは、会議の公開に関して、個人のプライバシーに関する事などで非公開の必要がある場合以外は原則として会議を公開することとしているがよろしいか。
議長（西村会長）	「異議なし。」
大越和加委員	次に、議事録の署名について、これまでどおり「会長と出席委員 1 名の署名をもって正式な議事録とする」こととし、今回は大越和加委員にお願いしたいがいかがか。
議長（西村会長）	「了承。」
議長（西村会長）	よろしくお願いします。
議長（西村会長）	議事・報告事項の（1）平成 29 年度仙台市環境局主要事業について、（2）温室効果ガス排出量等について、（3）環境影響評価制度の対象事

環境企画課長	<p>業の拡大及び環境調査の強化について、(4) せんだい環境学習館(たまきさんサロン)の取り組みについて、事務局より説明いただく。</p> <p>資料1に基づき、平成29年度仙台市環境局主要事業について説明</p>
議長(西村会長)	<p>ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見等はあるか。</p>
坂川勉委員	<p>事業系生ごみ処理機購入費補助が新たに行われることは重要なことだが、生ごみのリサイクルを進めるにあたり、利用先の確保についてどのような取り組みを行うのか。</p> <p>もう1点、事業系紙類などの共同資源物回収施設設置に対する費用補助は、どれぐらいの実績があるのか。</p>
事業ごみ減量課 指導担当課長	<p>処理機には主に堆肥型、消滅型、減容型といった種類がある。用途に合った利用先を確保できるよう周知していく。</p> <p>2点目だが、昨年度から実施し、2件で回収している。昨年3月から回収が行われ、1件は73トン、2件目は実績がまだである。</p>
環境局長	<p>生ごみの減量・リサイクルについて、民間のリサイクル施設も市内にあり発電や堆肥化しているところもあるので、民間と市の事業の両方の組み合わせでやっていきたい。</p> <p>ごみの減量を2万トンしなくてはいけないが、生ごみは重いので、これを減らすよう今年度は力を入れてやっていきたい。</p>
金野由之委員(後 藤康宏委員代理)	<p>事業者との協働による事業ごみの減量・リサイクルの中の搬入ごみ展開検査装置の導入だが、実際どのような検査をするのか。また、減量やリサイクルにどのような形でアプローチしていくのか。</p>
事業ごみ減量課 指導担当課長	<p>工場でパッカー車が搬入した事業ごみの内容物を検査し、主に資源物、産業廃棄物などの混入状況を検査する。排出者を特定した上で後日、排出者のもとに行って指導して改善を図るものである。</p>
環境局長	<p>検査装置はベルトコンベアにキャタピラをつけたものである。パッカー車のごみを検査装置内に下ろし、コンベアを動かし内容物を検査する仕組みである。展開検査自体は従来手作業で年に数回実施しているが、手間がかかり多くの回数をできなかった。導入により従来に比べ展開検査を機動的・能率的に行うことが可能となることから、排出事業者等への指導啓発の強化につながるものと考えている。また、今年、専任の人員を配置するなど効果的な実施に努め、排出事業者に直接的な指導を重ねることにより事業ごみの減量につなげていきたいという仕組みである。他都市への視察等で確かに効果があると判断し、予算を確保して、次の議会に契約案件で提出するという段取りである。</p>

佐藤わか子委員

事業系の紙類回収ステーションの利用促進について、いい取り組みと思うが、事業者への何らかのインセンティブを考えているのか。

2点目は、家庭系生ごみについて、段ボール式や電気式の処理機に補助を出している事業について本当に効果があるか検証をしているのか。プランというのは立てたら検証し、チェックし、余り効果がなければまた新たなプランを作らなければいけないが、家庭系生ごみに関しては従来とほとんど変わっていないと感じるがどうか。

廃棄物事業部長

紙類回収ステーションは、事業者の方からも市内で4つは少ないと話をいただいております、民間事業者の協力をいただき3月から箇所を増やし行っただ。事業者の比較的都合のいい時間に無料で持ち込め、営業ごみに出せば処分手数料なり運搬手数料に跳ね返るので、経済的な動機づけにもなると考える。

商工団体や事業者の集まりに積極的に出向きPRしていきたい。

2点目だが、助成を受けた方にアンケート調査を定期的に行い、利用状況や実際の生ごみの減量状況を聞いているが、1機当たり年間約80キロ生ごみが減って、堆肥とか減量になったというデータもある。

毎年400～500機ぐらいの補助を行っており、今後も定点観測をしながら、広く市民にお知らせし、市民と考えながら取り組みを進めてまいりたい。

佐藤わか子委員

家庭系生ごみの電気式などに補助を出しているが、補助事業による減量分が全体の何%に当たるのか、事業として本当に生ごみ減量に効果があることになるのか、事業系、家庭系生ごみを含めごみ減量・リサイクル施策として今後どうするか検討をお願いしたい。

吉岡敏明委員

廃棄物への意見は、廃棄物対策審議会の宿題かなと思うが、ここは環境審議会なので別な視点で要望したい。

国際的には、SDGs（エスディーズ、持続可能な開発目標）が定められている。仙台市の行政として個々に取り組まれているものは、具体的なアクションとしてどんどん進めていただきたいが、そのアクションがSDGsのカテゴリーの中のどこに相当するのかマッピングし、仙台市は持続可能な開発目標に対しここを重点的に取り組んでいる、まだここに取り組んでいないということが分かるようにすることを、今後検討していただきたい。

環境企画課長

杜の都環境プランの中での整理で進めているが、次回、33年度以降の計画を立てる中でそういった観点も取り入れながらできるか検討していきたい。

吉岡敏明委員

既にSDGsで目標がカテゴライズされているので、今ある計画の中で

環境局長	<p>ここに当てはまるのかをマッピングしてほしいということである。マッピングすると市民にも国際的にも、あるいは国がそれに向かって進む方向に対しても、仙台市はこういう取り組みをしているということを示すことになるので、今からでもやっていただきたい。</p>
議長（西村会長）	<p>市民に対して、廃棄物も含め、環境プランの推進をどのように進めていくかという説明のときの切り口の話と受けとめた。そういった意味でいろいろな切り口があったほうがわかりやすいと思うので、今後工夫してまいりたい。</p>
渡邊浩文副会長	<p>ちょっと勉強をしていただければすぐできると思うので、よろしく願います。</p>
環境企画課長	<p>環境変化・気候変化に対しては緩和策とともに適応策を考えなければいけない。SDGsにも一部含まれていたかと思うが、マッピングして整理し明らかにしつつ、まずここをやっているという見せ方が大事と考える。</p> <p>もう一つは、前回、私が発言した温室効果ガス削減計画書制度モデル事業については、地方行政の枠組みだけではなく、外部の機関なり専門家等々の知恵も借りるようなやり方をしてもいいのではないかと述べたが、何か検討されているのか。</p>
議長（西村会長）	<p>前回の審議会で、渡邊副会長からアドバイスをいただいたが、今年度、外部のコンサルということで、他都市で計画書制度の運営実績がある、あるいはエネルギー管理士の資格者を有している事業者を公募し、モデル事業の進め方に対して具体的なアドバイスをもらう形での委託契約を締結し、今月から委託業者と一緒に事業所の訪問を始める段取りで進めている。</p>
環境企画課長	<p>続いて、議事・報告事項（２）の温室効果ガス排出量等について、事務局より説明いただく。</p>
議長（西村会長）	<p>資料２により、温室効果ガス排出量等について説明</p>
環境企画課長	<p>ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見はあるか。</p> <p>私から一つ、温室効果ガス排出量だが、2015年速報値では2014年に比べて減っているが、この要因について、今推定できるレベルで結構だが、何かあるのか。</p> <p>速報値の分析結果では、民生家庭部門の減が2015年は進むと考えている。</p> <p>理由としては、2015年は暖冬で家庭でのエネルギー使用量が落ちていることが考えられる。数字が出揃っていない部門が多いが、大きくはそこが</p>

吉岡敏明委員	<p>原因ではないかと検証している。</p> <p>温室効果ガスの排出量だが、仙台市の具体的な取り組みがどう効果があったのかが排出係数に埋もれて見えにくい。</p> <p>2014年の数値が、例えば2010年とか2009年の排出係数をベースにする と多いのか少ないのかと比較できると思う。それによって仙台市のこれま での取り組みが温室効果ガス排出抑制にどれだけ貢献したか見えやすくな ると思うので、そういった検討をすると施策の効果が見やすくなると思 うが如何か。</p>
環境局長	<p>委員ご指摘のとおりであり、CO₂の削減については、同様に感じていた。 計画書制度で事業所を訪問した際も排出係数頼みで事業者として努力し ても結果として表れにくいというような意見も頂いた。自助的な努力で削 減した部分をカウントできないかという議論を局内でも行っており、他の 自治体や他の事業者での取り組みについてアドバイスをいただきながら 今年度少し整理させていただき、次回の審議会のときに議論のたたき台を つくってみたい。</p>
議長（西村会長）	<p>今のテーマは非常に重要なので、エネルギー消費量という形で少し見え ようにはしているが、さらに工夫ができるところはぜひやっていただき たい。</p>
大越和加委員	<p>3の温室効果ガス排出量以外の管理指標の表の中で、重点5の都市公園 面積について、2016年度の「m³」を「m²」に直していただきたい。</p> <p>2点目は、ざっと計算して200万平方メートル増だが、具体的にどこな のか説明いただきたい。</p>
環境企画課長	<p>「m³」を「m²」に訂正する。</p> <p>2点目だが、さきほど資料がなく担当部署に確認すると回答した件につ いては、2016年度の都市公園面積の増加要因としては、農政部門で管理し ていたサイカチ沼緑地（約100万m²）を新たに都市公園として供用開始し たことに加え、集団移転先の整備や開発行為により公園が整備されたこと などが挙げられる。</p>
議長（西村会長）	<p>続いて、議事・報告事項（3）環境影響評価制度の対象事業の拡大及び 環境調査の強化について事務局より説明いただく。</p>
環境共生課長	<p>資料3に基づき、環境影響評価制度の対象事業の拡大及び環境調査の強 化について説明</p>
議長（西村会長）	<p>ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見等はあるか。</p>
佐藤わか子委員	<p>この件に関しては仙台市民が大変高い関心を示しているので、徹底的に こういうモニタリングをやっていただきたいが、将来、モニタリングでバ</p>

環境局長

ワーステーションが稼働した後のデータに変化があり、数値が悪くなったときに、どういう対応をして改善してもらうかどのように考えているのか。仙台市の考えを聞きたい。

委員のご指摘のとおり、市民の方々の関心も高く、またご懸念もいただいていると受けとめている。要因が特定されたという状況であれば、その特定された要因の事業者と話し合いをする、これがまず原則だと考える。

パワーステーションについては、本市と締結している公害防止協定に基づいて客観的な検証を行い、その上で交渉することになると考える。この件に限らず、環境にかかわる影響があった場合の対応については、客観的なデータの把握が大前提にはなるが、粘り強く交渉することを基本に、これまでもやってきたところであり、これからもそのような姿勢でやっていく所存である。

緑上浩子委員

石炭火力発電所についての仙台市の公害防止条例の枠の中では、PM2.5、水銀、CO2が規制項目に入っていなかったということがあり、環境団体からもっときちんとしてほしいという話があったと思う。PM2.5と水銀等の調査は入っているが、CO2に関しては、特に何も新たなものはしないということなのか。

環境局長

PM2.5や水銀は法の中で規制がかけられ、あるいは規制がかけられる予定になっているという状況がある。CO2については、排出規制という概念になじまないので、排出量の削減という取り組みの中で、本件についても捉えているという認識である。

緑上浩子委員

どのくらい出ているかは調べるということは、そういうことなのか。削減を要請するということがか。

環境局長

CO2の削減については、カウントのルールがあり、電力の場合は電力の消費地でカウントされるというのが世界共通のルールとなっている。しかし、環境への負荷が高まること自体は好ましいこととは考えていないので、総論的な話の中で、事業者として削減可能な努力を求めるというスタンスである。

議長（西村会長）

CO2のところは何となく実感と合わないところがあるとは思う。仙台市に立地しそこで化石燃料を燃やしているわけで、仙台市の中にカウントされないのは不思議なところはあると思うが、国際ルール上はそうになっている。しかし、このようなことが重なっていくということ自体は仙台市にとっては、環境都市としてはよくないので、環境影響評価制度を速やかに変えていただいたということになるかと思う。想定外だったと思うが、さまざまなことを想定し早目早目に対応していただきたい。

続いて、議事・報告事項（4）せんだい環境学習館（たまきさんサロン）

環境共生課長	<p>の取り組みについて説明いただく。</p> <p>資料4に基づき、せんだい環境学習館（たまきさんサロン）の取り組みについて説明</p>
議長（西村会長）	<p>ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見等はあるか。</p> <p>吉岡委員から何かないか。</p>
吉岡敏明委員	<p>移転後、利用する人が急激に増えたのは一緒にやっている者としてもありがたい。今後もっと伸ばしていただけるようにしたいと思う。残念なのは、自由来館の数が1,000人ぐらしか増えていないことである。講座をもっと開設し自由来館の数を増やせるような仕組みというか戦略が必要と感じている。</p>
議長（西村会長）	<p>この建物が建っているのは青葉山新キャンパスで、隣に災害科学国際研究所があり、この4月からは農学研究科、農学部が全部青葉山に移転した。そこに行く途中にサロンがあり、それらと連携しながら講座を増やしつつ、自由来館数の増加につなげていくことを一緒に考えていきたいので、ぜひお願いしたい。また、周りの方々にもいろいろサポートをいただけたらと思っている。</p> <p>どうぞ連携してよろしく願います。</p>
佐藤わか子委員	<p>地下鉄を利用して行っていただくという、これを最大限活用し、交通局と連携して何かメリット、例えば、この講座に参加すると地下鉄が少し安くなるとか、何か地下鉄とペアを組んでやる講座なども検討いただきたい。</p>
環境部長	<p>委員からご指摘のような交通局と連携した取り組みにはまだ至っていないが、2つほど事例を紹介する。</p> <p>交通局が夏休み期間中に行っている地下鉄沿線の各種施設のスタンプラリーがあるが、サロンを昨年度開館した当初からこのスタンプラリーの1カ所として加え、地下鉄を利用して子供たちに来てもらうよう取り組んでいる。</p> <p>もう一つは、サロンまでの動線の表示である。案内表示にわかりにくい点があったため交通局等と交渉し掲示を工夫した。</p>
吉岡敏明委員	<p>今後も交通局と連携しながら地下鉄の利用促進、サロンの利用促進につなげてまいりたい。</p> <p>案内については、大学のキャンパスマスタープランの中で、表示の統一性をかなり押し出しているの、うまく調整する必要がある。こちらの宿題とさせていただきたい。</p> <p>もう一つ、青葉通にあったケヤキがちょうどキャンパスを出た正面に7</p>

柳沼眞理委員	<p>本移植され非常に元気よく育っているのので、その辺のアピールも一緒に行っていきたい。サロンに行く途中の、エスカレーターを上がった正面に、青葉通にあったケヤキが7本移植されているので紹介する。</p>
環境部長	<p>公共交通の利用を促していると思うが、私は車で行くことが多い。車が入るときに全然表示がなく、駐車場までの道路や駐車場の位置がはっきりしないので、車への案内表示ももう少しお願いしたい。まだ整備途中だとは思いますが、配慮いただきたい。</p> <p>もう1点、9枚目のスライドの中に「環境団体などとの一層の連携推進」とあるが、環境団体も高齢化しており、連携をもっとしたいと思うが、仙台市で把握している環境団体は今幾つあり、その推移はどうなっているのか。</p>
吉岡敏明委員	<p>駐車場の関係につきましては、大学との相談となる。</p> <p>2点目の環境団体の数は、環境局と関わり合いがある団体として、現時点で40前後の団体について把握している。どこまでを環境団体とみなすかにもよるが、横ばいの状況と理解している。</p>
柳沼眞理委員 吉岡敏明委員	<p>駐車場の問題とか、どこまで車が入れるのか、あるいは出入り口の問題、これは大学の施設になるので、大学のほうで整備することになるが、整備の予算は文科省の管轄になる。また、仙台市独自で大学の施設整備の予算化をしてくれば、大学は引き受けやすいがこれも難しいので、実際のハードの面よりもソフトの面で使いやすい形でどこまで整備をできるのか、検討していきたい。</p>
議長（西村会長）	<p>サロン専用の駐車場はまだないということか。</p> <p>仙台市と我々の研究科、大学と協定を結んでおり、サロン利用のため一般の市民が駐車場を利用することは大丈夫であると思う。</p> <p>ただ、サロン専用の駐車場を用意している状況ではない。</p> <p>大学のキャンパスマスタープランは今いろいろ動いているが、全体としては駐車場をしっかりと確保していくという方向性ではないので、なかなか難しいと思う。できれば、せんだい環境学習館たまきさんサロンなので、低炭素をキープしながら、さらに利便性をうまく上げていくという工夫をできればいいと思う。</p>
引地智恵委員	<p>全体を通して、少し時間があるので、最初の議題も含めて何かご質問やご意見等はあるか。</p> <p>資料1の今年度新規事業の「モッタイナイキッチン」サイト運営と、「資源ナーレ」について、展覧会開催の予定とあるが、両方の詳しい内容と現状について教えていただきたい。時期はいつごろでどんな効果を期待しての取り組みなのか。</p>

家庭ごみ減量課
長

「資源ナーレ」展覧会は、「混ぜればごみ、分ければ資源」ということで、美術作家、あるいは学校の教授にご意見を伺い、メディアテークと協力をしながら、今年の冬頃に展覧会、市民参加のワークショップ、といったものを行いたいと考えている。ごみを分別して資源としていくという意識を啓発することで、美術の切り口からもごみの減量に関心を持ってもらうというコンセプトである。

詳細については、事務局の中で検討を重ねている段階である。

引地智恵委員

アートという切り口からごみの減量化に対する関心を高めてもらうとあるが、裾野から自発的に盛り上がってくる形が望ましい。その観点から専門家作品展示だけでなく、市民参加型のワークショップの度合いを強めてほしい。例えば、小中学校、PTA、子供会などに呼びかけ市民全体が展示会に興味を持つようコンテスト形式をとるのも参加を促す一つの方法である。環境というテーマに沿った物づくりや共同作業をすることで多くの市民が環境やごみの減量化をもっと身近な問題として捉え根付いていくのではないかと思う。

家庭ごみ減量課
長

美術作家の作品を展示するだけではなく、実際に市民の方々にもつくる場所から参加していただくよう、委員ご指摘のとおり、子供を始め多様な方にもご参加いただきながら、ワークショップもあわせてやる予定であり、そこから関心を高めていきたい。

議長（西村会長）

ぜひ検討をよろしくお願ひしたい。

非常にユニークなイベントと思うが、何か前例とか、他都市でやっていたとかあるのか、あるいは、仙台市のオリジナルなことなのか。

廃棄物事業部長

「資源ナーレ」は「ピエンナーレ」からきており、他都市の例というよりは、昨年度メディアテークで元十和田現代美術館長のフォーラムがあり、いわゆるごみというか景品を使ったオブジェの紹介や、アートの一環で資源物・ごみに関わる講演が開催され、こういったものも踏まえ新たに企画したものである。廃棄物について、若者などごみの減量・分別に関心の低い層にどう訴えていくか、どのように一緒にやっていくか、市民・事業者と協働でごみの減量・分別を考えて企画・実施をしていくこと、これが大事であると考えている。

ごみの取り組みについて、資源ナーレ、モットイナイキッチンなど、今年度に市民、環境団体、事業者と一緒に考え、どのようなものをしていくと効果があるのか検討する組織も立ち上げた。引地委員からもあった、こういうことをやるともっと効果があるのではないかと、市民も一緒にやってくれるのではないかとといったものを考えていろいろ取り組み、その都度、情報発信もしていきながら、進めてまいりたい。

議長（西村会長）	委員の方も関心があったかと思う。PRは非常に大事なので、ぜひこういう形で、入り口の関心というのは必ずしもごみではなくアートのほうからでも結構であり、環境の意識を高める非常に大切な取り組みだと思うので、よろしく願いたい。
熊谷幸夫委員	資料1の3(2)のツキノワグマに関する対策強化だが、昨年第2回の環境審議会が終わって以降、クマの出没が大分目立ち、中にはクマに襲われたという方を2人、私が知っている方である。
環境局長	今年もう既にクマが団地、寺岡二丁目あたりで出没したと新聞に載っていた。今年の場合昨年よりもクマの出没が多いと考えられる。環境局ではその対策をどのように考えているのか。
熊谷幸夫委員	資料1に記載の取り組みは、クマ出沒情報マップはこれまでは他の機関のマップにリンクしていたため少しタイムラグがあったので、自前でマップをつくって市のホームページで発信するというものである。
環境局長	それから、ご指摘のように、今年度もう既に目撃例が増えているので、説明会を前倒しし、危ないエリアの住民への説明は既に実施している。
熊谷幸夫委員	より抜本的な対策として、いざというときに緊急捕獲の許可をさらにタイムラグを短くするため権限を移譲してもらうということで今話を進めている。県でも条例の改正などが必要であるが、次年度に移譲するという取り組みを進めている。
環境局長	今年から、かむりの里観光協会等で行っている、自転車で朴沢地区の光明の滝まで行くツーリングや、泉中央市民センターで支倉川という七北田川の支流で川遊びをする会を企画しているが、けものというのは暗いところにいるものなので、周辺の対策をとっていただきたい。
議長（西村会長）	私たちの地域はイノシシやサルは以前はいなかったが、ここ最近イノシシの被害や、サルも1年前から出没をまたするようになったので、その辺の対策もよろしく願いたい。
環境企画課長	農作物への対策という観点で、経済局ともよく連携しながら仙台市全体として取り組みを進めてまいりたい。
議長（西村会長）	青葉山もクマが出ているが、被害が出たら大変なことになる。その前の段階で未然に防ぐということで、ぜひいろいろな検討を進めるようよろしく願います。
環境企画課長	本日の審議はここまでとするが、事務局から何かあるか。
議長（西村会長）	次回は10月頃を予定している。詳細が決まり次第、改めて連絡するのでよろしく願います。
議長（西村会長）	以上で本日の審議会の議事を終了する。
	審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。

平成29年7月14日

仙台市環境審議会会長

氏名 西村 修

仙台市環境審議会委員

氏名 大越 和加